

物語を彫る

彫井波



2023年9月30日[土]～12月3日[日]

竹中大工道具館1Fホール

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM



公益財団法人 竹中大工道具館

1



Press Release

2



瑞泉寺本堂

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

竹中大工道具館では、2023年9月30日[土]から12月3日[日]の会期で「井波彫刻―物語を彫る」展を開催いたします。

富山県南砺市井波は日本を代表する木彫りの町です。町の中心を貫く八日市通りに数多くの木彫刻師たちが工房を連ね、石畳の風情ある町並みに鑿を打つ槌音を響かせています。

「井波彫刻」は宝暦13年(1763年)に始まる瑞泉寺再建を起源とし、現在まで260年に及ぶ伝統を引き継ぐ木彫刻師たちは、地元および周辺地域の寺院や神社、お祭の山車(曳山)はもちろん、国内の著名な寺社建築である日光東照宮、京都東本願寺や東京築地本願寺、近年では2018年に復元された名古屋城本丸御殿でもその腕をふるっています。

展覧会では、大胆な深彫りに高度な木彫刻技術が凝縮された寺院彫刻、豪華絢爛な祭り屋台を飾る精緻な曳山彫刻、そして明治期以降に住宅欄間として大きく発展した繊細優美な欄間彫刻などを展示します。また200本以上の鑿と彫刻刀を駆使する制作工程を実際に使われる道具と下絵、映像等でご紹介します。

獅子や龍、さまざまな動植物や名勝の情景が織りなす「物語」を、卓抜した技術で生き生きと描き出す木彫刻の数々は、今もなお各地の建築や人々の暮らしを彩っています。

豪壮かつ優美な「井波彫刻」の粋をぜひご堪能ください。

この機会に貴紙誌にてぜひ記事としてお取り上げ頂きたく、宜しくお願ひ申し上げます。

謹白

2023年8月

公益財団法人竹中大工道具館

開催情報

| | |
|-------|---|
| 名 称 | 井波彫刻―物語を彫る |
| 会 期 | 2023年9月30日[土]～12月3日[日] |
| 会 場 | 竹中大工道具館 〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 |
| 開館時間 | 9:30～16:30(入館は16:00まで) |
| 休 館 日 | 月曜日(祝日の場合は翌日) |
| 入 館 料 | 一般700円、大高生・65歳以上の方500円、中学生以下無料(※常設展示観覧料を含む) |
| 主 催 | 竹中大工道具館 |
| 協 力 | 井波彫刻協同組合、山田写真製版所 |
| 公式サイト | https://www.dougukan.jp/special_exhibition/inamichoukoku |

※展示総数：31点(彫刻欄間：17点、祭り彫刻：4点、寺院彫刻3点、資料4点など)



【寺院彫刻】

見どころ1

井波彫刻のはじまりは寺院建築を飾る彫刻です。井波の瑞泉寺ずいせんじをはじめ、周辺の寺院や神社には数多くの作品が残されており、獅子や龍、あるいはさまざまな動植物の彫刻が建物を荘厳しています。建物の彫刻は遠くから見ることを想定し、深彫りで大胆に、そして立体感が出るように彫っています。力強い彫刻をお楽しみください。





福泉寺の養股（上「菊に鶏」、下「桐にオシドリ」）初代川原啓秀作

【祭り彫刻】

見どころ 2

曳山の鏡板

井波の彫刻師はお祭りに出される屋台や曳山を飾る彫刻にもその腕をふるいました。富山県下の屋台・曳山はもちろん、大阪や神戸のだんじりにも井波彫刻の流れをくむ彫刻師の作品を見ることが出来ます。社寺の彫刻が比較的大きく、人の目から遠い所に設置される事が多いのに対し、屋台の彫刻は人の目に近い所で鑑賞されるため、よりいっそうの精緻さ、華やかさが求められました。今にも飛び出しそうな龍や人物など躍動感あふれる彫刻を目の高さでご覧ください。



4 | 今石動川原町歌舞伎山車鏡板 初代岩倉理八作





5 | 八尾町諏訪町曳山見越 ^{VA}_{VI} 十二代田村与八郎作





6 | 彫刻欄間「清梅春蘭」 初代大島五雲作

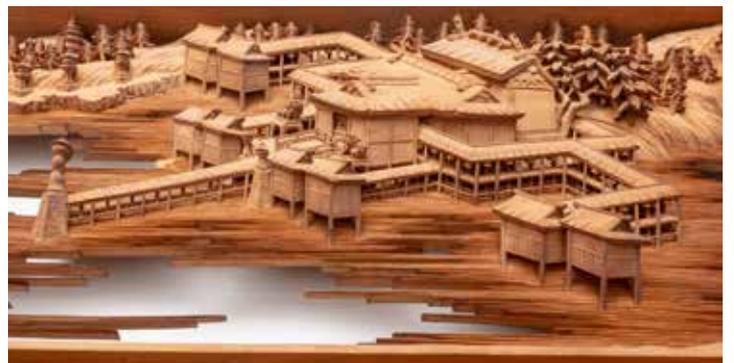


【和室彫刻】
見どころ3
彫刻欄間

明治時代、井波の彫刻師たちは和風建築の和室の欄間部分に社寺彫刻の技術を応用した彫刻欄間を作ることになりました。旅館や料亭に多くの欄間が納められ、高度成長期以降は一般の家庭にも彫刻された欄間が普及します。社寺や屋台以上に繊細な表現がなされる彫刻欄間は、動植物や名勝をモチーフにした作品が多く、そのリアリティの高さから井波の職人の高い技術力をみることができます。



7 | 彫刻欄間「日本三景」 初代川原啓秀作





8 | 彫刻欄間「宮島」 初代南部白雲作

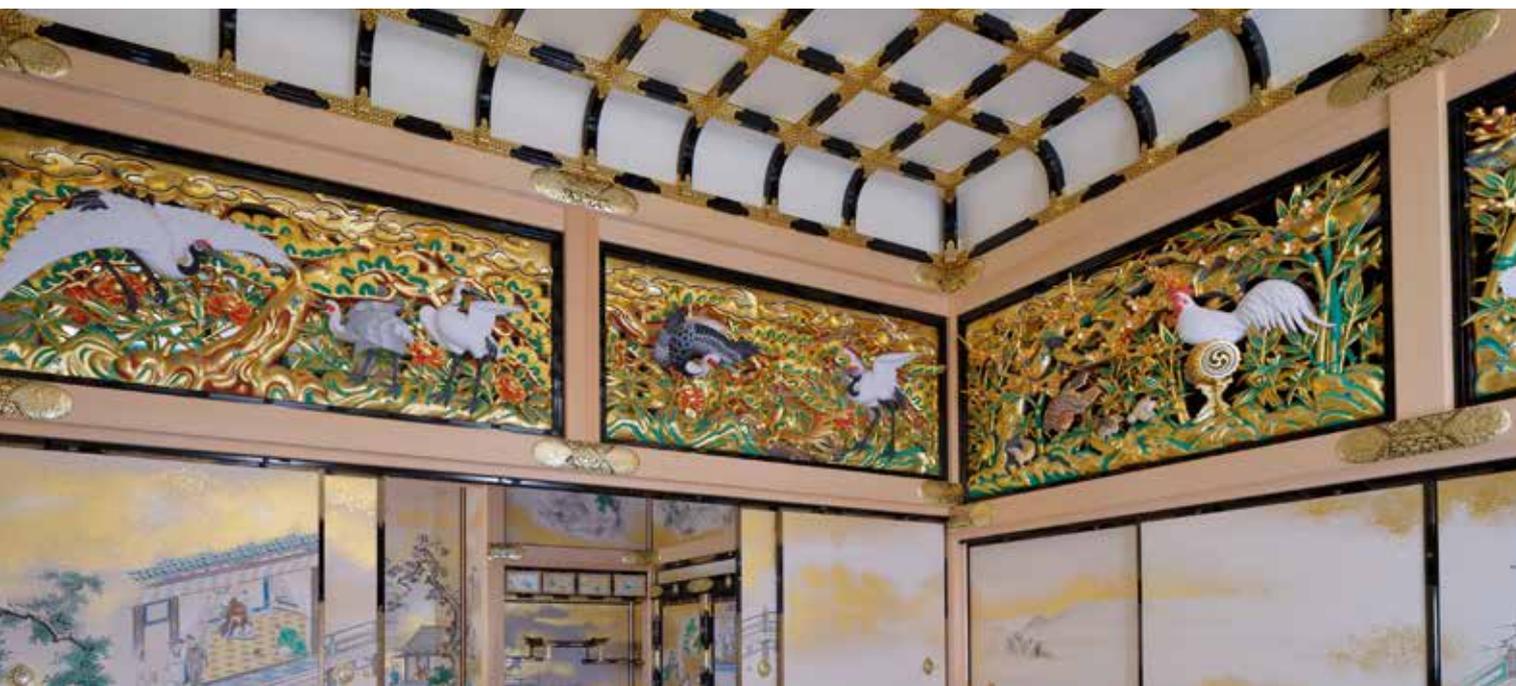
【彫刻師の仕事】 見どころ4

彫刻師がどのような道具を用いて、どのように仕事をしているのか、製作の裏舞台を映像で紹介します。彫刻欄間づくりの工程の下絵、荒彫り、仕上げ彫り、完成までの様子がわかります。また下絵の道具と彫刻に用いる200本以上の鑿のみも展示します。

彫刻欄間の荒彫りの様子



9 | 製作道具



写真提供：名古屋城総合事務所

1. **記念講演会**「名古屋城の彫り物—本丸御殿の彫刻欄間—」

復元された尾張徳川家の城・名古屋城。その一角をしめる本丸御殿は豪華絢爛な室内装飾が有名で、なかでも7枚の彫刻欄間は注目的です。その復元を手がけた井波彫刻伝統工芸士・岩倉綾泉さんを迎え、彫刻欄間の基礎知識をはじめ、復元のいきさつや製作工程、苦労話、そして見どころなどについてお話を伺います。また彫刻欄間の実演も行います。

日時：2023年9月24日〔日〕13:30～15:00（13:00開場）

講師：岩倉綾泉（井波彫刻伝統工芸士）

場所：竹中大工道具館1Fホール

参加費：無料（別途入館料が必要）

参加人数：100名（※応募者多数の場合は抽選）

申込締切：2023年9月2日〔土〕まで



講師プロフィール

岩倉綾泉（いわくらりょうせん）

昭和27年（1952）旧井波町生まれ。父・岩倉勘宰に師事。深彫り、籠彫り、細密彫刻を得意とし神社仏閣、屋台彫刻、欄間、置物彫刻等を制作。日展、元現代工芸美術家協会会員、元井波彫刻協同組合理事長、元井波彫刻伝統工芸士会会長。

岩倉彫刻工芸ウェブサイト <https://iwakura-kibori.com/>

イベント申し込み方法

ウェブサイトまたは往復はがき（講演会のみ受付）に下記事項をご記入の上お申し込みください。

【ウェブサイト】

各イベントページよりお申し込みください。

○講演会 https://www.dougukan.jp/event/lecture_202309

○見学会 <https://www.dougukan.jp/event/inamichoukoku-guidetour>

講演会



見学会





2. **見学会**「井波彫刻師による東本願寺の彫刻ガイドツアー」※WEB申込のみ

東本願寺には、明治時代に尾張・京都・井波などから駆け付けた全国屈指の彫刻師の手による見事な彫刻が随所に施されています。なかでも井波の彫刻師は東本願寺再建事業の彫刻主任を務めるなど大活躍します。企画展に合わせて先人の思いを受け継ぐ現代の井波彫刻師が、東本願寺の彫刻の数々をご案内します。今回のガイドツアーには真宗大谷派（東本願寺）の僧侶も同行し、僧侶の視点からのお話もお聞きいただけます。

日時：①2023年10月28日〔土〕15:00～17:00（受付開始14:30）
②2023年10月29日〔日〕8:45～10:45（受付開始8:15）
③2023年10月29日〔日〕15:00～17:00（受付開始14:30）
④2023年10月30日〔月〕9:30～11:30（受付開始9:00）

集合場所：東本願寺御影堂門下
参加費：各回とも1000円
定員：各回とも50名（事前申込制、先着順）
講師：井波彫刻協同組合、真宗大谷派（東本願寺）僧侶

【往復はがき】

[往信用裏面]▷①イベント名（ご希望日時も）②参加者氏名（フリガナ）③郵便番号・住所④電話番号⑤年齢

[返信用表面]▷宛先に申込者の郵便番号、住所、氏名をご記入ください。裏面は未記入のこと。

[申込み先]▷〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1 竹中大工道具館イベント係

※ハガキ1通につき1名様までお申し込みいただけます。※参加可否の詳細は締切日以降10日程度でご連絡いたします。

※ご記入いただいた情報は厳重に管理し、イベント以外の目的には使用いたしません。

《広報用画像》

- 画像データ1～9 (jpeg) をご提供いたします。
- 画像をご使用の際は必ずご案内のクレジットをご表記いただき、申請の目的以外にご使用なさらないでください。
- 掲載記事・番組内容について情報確認のためにゲラ刷り、原稿の段階で下記事務局までFAX送信ください。
- お手数ですが、掲載紙・誌、または録画媒体等を下記広報事務局あてに1部ご寄贈願います。

《お問い合わせ》

「井波彫刻―物語を彫る」展広報事務局（竹中大工道具館内）

〒651-0056 神戸市中央区熊内町7-5-1

TEL:078-242-0216 FAX:078-241-4713

E-mail: inamichoukoku@dougukan.jp

- ・読者プレゼントとして本展図録5部または当館招待券ペア（2枚）5組を提供することができます。
- ・その他、撮影などの取材をご希望される場合は別途事務局までご連絡ください。

当館のご案内



日本で唯一の大工道具の博物館「竹中大工道具館」は、大工道具を収集・保存し、研究や展示を通じて後世に伝えていくことを目的に設立されました。常設展は7つのコーナーに分かれており、唐招提寺金堂組物の実物大模型、五感に響くハンズオン展示などを通して大工道具の魅力をお伝えします。また博物館そのものが「匠の技の数々を肌で感じてもらえる場」となっており、建物の各所には大工や左官、瓦師などによる伝統の職人技をちりばめました。シンボリックで自己主張の強い建築ではなく、人と自然をやわらかくつなぐ存在としての「和」の建築を楽しんでいただければ幸いです。

TAKENAKA
CARPENTRY
TOOLS
MUSEUM 公益財団法人竹中大工道具館



《アクセス》

山陽新幹線「新神戸駅」中央改札口より徒歩約3分
市営地下鉄「新神戸駅」北出口2より徒歩約3分
シティループ「12新神戸駅前(1F)」下車徒歩約3分
神戸市バス2系統・18系統「熊内6丁目」下車徒歩約2分